

# G-5 短大家政科における調理実習のあり方 (第1報) 学生の意識調査

中京女子大家政  
兵庫女子短大

下野房子  
○藤本真美子

〈目的〉短大家政科の学生は、一部の学生を除き将来中学校の家庭科の教師となることを前提に学んでいる。調理実習においても然りである。そこで二年間においてより能率よく又実習効果をより高めるために学生の実態(意識)をつかみ、調理実習のあり方についての一考察をおこない、生きた実習にするために本調査を行なった。

〈方法〉家政科の学生110名を対象に、昭和50年4月に、家政科を選んだ理由をはじめ、将来の希望、過去に学習した料理名などについてのアンケート調査を実施した。

〈結果〉(1)家政科を選んだ理由としては……①家政科が好きだから---38.3% ②免許がとれるから---35.1% ③花嫁修業---13.6% ④その他 13% となっている。

(2)将来の希望について……①将来教師になりたい----42.8% ②教師にならない----57.2%。まずアンケート(1)(2)を通して、約半数の学生は教師になる事を希望している事がはっきりとわかった。そこで次に兵庫県で中学校の教科書としてよく使用されている、開成堂発行の教科書より、1年生から3年生までの料理名40種についての理解度をみくみた。この結果、ムニエル、茶わん蒸し、ソテーといった簡単な料理にも正しい理解をしている学生が少なかった。以上の結果から過去に実習した料理についてあまり身につけておらず、食べるだけの調理実習であったといってもいいすぎではないように思う。こからの実態を土台に50年5月~51年5月までの1年間調理実習について一方法を試みたので、この詳細について報告する。